

令和3年度事業報告

自 令和3年10月1日 至 令和4年9月30日

I. 展覧会

1. 第50回「日本の書展」直轄展

令和2年1月に日本でも確認された新型コロナウイルス感染症は、令和4年になっても収束せず、長引くコロナ禍での展覧会開催となった。第48回展は関西展と中部展、第49回展は関西展と九州展が、緊急事態宣言中または宣言解除直後にあたり開催中止となったが、第50回展は直轄4展とも無事開催することができた。

今展は第50回を記念する節目の展覧会であるため、十分な感染予防対策を取りながら、3年ぶりに開催披露祝賀会も再開した。会期中のギャラリートークについては、参加人数の見通しが付かないことと、実施場所の広さの十分な確保ができない理由から、今回も実施を見合わせた。

50回直轄4展の出品者総数は3,648名。出品者総数の推移（49回展3,555名、48回展3,665名、47回展3,678名、46回展3,584名）を見ると、コロナ禍や展覧会中止にもほとんど影響されず、安定した数を保っている。

入場者数は、中部展2,767名（49回展／1,669名、48回展／開催中止、47回展／2,853名）、東京展8,363名（49回展／4,361名、48回展／4,136名、47回展／8,597名）、関西展1,702名（49回展／開催中止、48回展／開催中止、47回展／1,972名）、九州展1,822名（49回展／開催中止、48回展／1,425名、47回展／1,500名）、入場者数の推移を見ると、コロナ禍以前の入場者数に戻ってきている。

開催披露祝賀会の出席者数も、来賓・出品書家・関係者の全体で、中部展299名、東京展589名、関西展339名、九州展115名となっており、人の出足がかなり戻りつつあることが伺える。

「日本の書展」50回記念事業として、記念誌「全国書美術振興会五十年の歩み」を刊行し、東京展の会期に重ね、東京・セントラルミュージアム銀座で特別展「日本の書展を築いた先達の書」を開催した。記念誌の第2部には、特別展で展観した作品を掲載している。

例年出品者に対して行っている図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品プロマイド2枚ずつの贈呈のほかに、50回の記念品として記念誌1冊も併せて贈呈した。

(1) 中部展

会 期 令和4年5月31日（火）～6月5日（日）
会 場 愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階 A～I）
主 催 （公財）全国書美術振興会 中日新聞社
後 援 文化庁 愛知県 東海テレビ放送
協 賛 （公社）中部日本書道会
開催披露祝賀会 令和4年6月1日（水）18:00～20:00
名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」
出席者 299名

中部展の出品数は、巨匠16点、代表105点、委嘱17点、招待190点、秀拔選411点、合計739点、会期中の入場者数は2,767名だった。

（参考：前回49回展の出品総数739点、入場者数1,669名）

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。

今年は国際芸術祭（旧名称：トリエンナーレ）開催年だったために、ギャラリー全室の借用は叶わなかったが、J以外の展示室は借用できたために、739点全作品を一堂に展示することができた。

6月1日(水)の18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて299名の出席があった。全員着席、個別料理を提供する形式で執り行い、一卓あたりの席数を半分にし、席間をアクリル板で仕切るなど、可能な限りの感染症予防対策を行った(以下、東京展・関西展・九州展祝賀会とも共通)。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、中日新聞社 取締役事業担当 鷺見卓氏の共催者挨拶、樽本樹邨顧問の書家代表挨拶へと続き、来賓・全国書美術振興会役員・巨匠代表委嘱作家の紹介の後、東海テレビ放送株式会社 取締役事業担当 林泰敬氏の乾杯発声で祝宴に入った。20時頃、鬼頭翔雲評議員の閉会の挨拶で終了した。

(2)東京展

会期 令和4年6月16日(木)～6月26日(日) 6月21日(火)は休館日

会場 国立新美術館(展示室1A・1B・1C・1D)

主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社

後援 文化庁

開催披露祝賀会 令和4年6月16日(木) 12:00～14:30

ホテルオークラ東京 オークラプレステージタワー 1階 「平安の間」

出席者 589名

東京展の出品数は、巨匠16点、代表105点、委嘱49点、招待667点、秀拔選825点、東京展合計1,662点、他展の委嘱(中部展委嘱17点・関西展委嘱37点・九州展委嘱9点)も加わり総展示数1,725点、会期中の入場者数は8,363名だった。

(参考:前回49回展の出品総数1,662点、入場者数4,361名)

6月16日(木)の12時から、ホテルオークラ東京1階「平安の間」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて589名の出席があった。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、株式会社共同通信社 代表取締役社長 三土正司氏の共催者挨拶、衆議院議員・書道国会議員連盟会長 塩谷立氏、文化庁審議官 小林万里子氏、前文化庁長官・公益社団法人日展理事長・東京藝術大学名誉教授兼顧問 宮田亮平氏の3氏による来賓祝辞、文化功労者で日本芸術院会員の井茂圭洞名誉顧問による書家代表挨拶へと続き、来賓・全国書美術振興会役員・巨匠作家の紹介の後、書道国会議員連盟名誉会長 河村建夫氏の乾杯発声で祝宴に入った。14時30分頃、新井光風顧問の閉会の挨拶で終了した。

(3)関西展

会期 令和4年7月8日(金)～7月10日(日)

会場 大阪国際会議場(3階イベントホール A～E)

主催 (公財)全国書美術振興会 産経新聞社

後援 文化庁 大阪府

協賛 (公社)日本書芸院

開催披露祝賀会 令和4年7月8日(金) 12:30～14:30

リーガロイヤルホテル 3階 「光琳の間」

出席者 339名

関西展は、巨匠16点、代表105点、委嘱37点、招待450点、秀拔選535点、合計1,143点、会期中の入場者数は1,702名だった。

(参考:中止となった前回49回展の出品総数1,117点)

7月8日(金)の12時30分から、リーガロイヤルホテル3階「光琳の間」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて339名の出席があった。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、産経新聞社 事業本部長 伊藤富博氏の共催者挨拶、文化庁 地域文化創生本部 事務局長・文化創造担当参事官 高田行紀氏の来賓祝辞、文化功労者で日本芸術院会員の井茂圭洞名誉顧問による書家代表挨拶へと続き、来賓・全国書美術振興会役員・巨匠作家の紹介の後、一般社団法人共同通信社 大阪支社長 石井達也氏の乾杯発声で祝宴に入った。14時30分頃、真神巍堂常務理事の閉会の挨拶で終了した。

(4)九州展

会 期 令和4年7月12日(火)～7月18日(月・祝)
 会 場 第1会場 福岡市美術館(2階ギャラリー A～F)
 第2会場 福岡県立美術館(3階展示室 1～4号室)
 主 催 (公財)全国書美術振興会 西日本新聞社
 後 援 文化庁 福岡県
 開催披露祝賀会 令和4年7月16日(土) 12:30～14:30
 ソラリア西鉄ホテル福岡 8階 「彩雲」
 出席者 115名

九州展は、巨匠16点、代表105点、委嘱9点、招待142点、秀拔選195点、合計467点、会期中の入場者数は1,822名だった。

(参考：中止となった前回49回展の出品総数454点)

7月16日(土)の12時30分から、ソラリア西鉄ホテル福岡8階「彩雲」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・関係者合わせて115名の出席があった。

祝賀会では、高木聖雨代表理事・理事長ならびに田中壮一郎代表理事・会長の主催者挨拶に始まり、西日本新聞社 代表取締役社長 柴田建哉氏の来賓祝辞、独立行政法人国立文化財機構理事長・九州国立博物館館長 島谷弘幸氏の来賓祝辞、来賓・全国書美術振興会役員・代表および委嘱作家の紹介の後、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団理事長 石原進氏の乾杯発声で祝宴に入った。14時30分頃、松清秀仙評議員の閉会の挨拶で終了した。

2. 第49回および第50回「日本の書展」巡回展

会 期 第49回巡回展 令和3年7月～令和4年4月
 第50回巡回展 令和4年8月～令和5年4月
 会 場 49回展は地方8カ所を開催。50回展も地方8カ所の開催を計画。
 主 催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社 各地元新聞社
 後 援 文化庁

現代書壇巨匠と現代書壇代表巡回作品(第49回展116点、第50回展121点)については、直轄展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方を巡回する。

第49回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	3.7.15～7.18	138	1,066
2	鳥取	米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	3.8.27～8.30	200	568
3	青森	青森市	東奥日報社	New's TO-0ビル3階催事場	3.9.4～9.6	251	588
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	3.9.30～10.5	484	10,316
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	3.10.13～10.18	438	2,630
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	4.2.23～2.27	158	1,185
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県立美術館	4.3.3～3.8	215	1,547
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	4.4.9～4.14	246	1,548

※白部分が、今年度(令和3年度)事業

第50回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	島根 松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	4.8.25～8.29	200	608
2	青森 青森市	東奥日報社	New's TO-Oビル3階催事場	4.9.3～9.6	269	651
3	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	4.9.17～9.19	141	650
4	広島 広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	4.9.29～10.4	524	12,408
5	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡本店 6階 葦川会館	4.10.12～10.17	434	2,650
6	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	5.2.22～2.26	—	—
7	長野 長野市	信濃毎日新聞社	長野県立美術館	5.3.3～3.6	—	—
8	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	5.4.8～4.13	—	—

※白部分が、今年度（令和3年度）事業

3. 第50回「日本の書展」東京展 公募臨書

会期 令和4年6月16日（木）～6月26日（日） 6月21日（火）は休館日

前期展示 令和4年6月16日（木）～6月20日（月）の5日間

後期展示 令和4年6月22日（水）～6月26日（日）の5日間

会場 国立新美術館（展示室1Dの一部 51～53室の3室）

主催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社

後援 文化庁

2012（平成24）年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回11回目となる。出品点数は941点で前回の816点より125点増。例年保ち続けていた900点台の出品点数が昨年はコロナ禍の影響からか800点前半まで落ち込んだが、今年はまた持ち直した。

令和3年12月9日に、国立新美術館審査室で審査委員8名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査をし、結果、入選数は476点、入選率は50.5%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様2,000円。入選作品は表具をして国立新美術館の51～53の3室に展示、壁面展示は2段掛けとした。展示後、入選者には表装作品と共に入選證を送った。

第50回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示	机上展示		計
	たて	よこ	篆刻	
前期展示	178	50	10	238
後期展示	178	50	10	238
入選数合計	356	100	20	476

第50回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢字		かな		篆刻
	たて	よこ	たて	よこ	
	341	17	15	83	
358		98			
入選数合計	476				

Ⅱ.「日本の書展」50回記念事業

1. 記念誌の刊行

名称	「日本の書展」第五十回記念 全国書美術振興会五十年の歩み
構成	第1部 全国書美術振興会五十年史 1973（昭和48）年から2022（令和4）年における主な事業を、①「日本の書展」、②「日本の女流書展」、③国際交流と海外展、④記念展・特別展、⑤書の発展に向けての5項目に分け、年表・写真・一覧表を交えながら全国書美術振興会の50年間の歴史を掲載した。
	第2部 「日本の書展」第五十回特別展 「日本の書展」設立時からの出品者であり、現代書壇の様々な書法と会派を形作ってきた文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員、日本芸術院賞受賞者、書展設立時の功労者62名の名作を掲載。 62点の作品は、日本芸術院、成田山書道美術館を始めとする美術館や記念館、個人所蔵など、全国25カ所の協力を得て借用した。 また、1977（昭和52）年、福島慎太郎初代理事長の古希祝いと勲一等瑞宝章受勲の祝賀が重なったことを記念し、その当時に「日本の書展」に出品する最高峰書家や代表一流書家76名から贈呈された「受勲記念帖」の祝賀の書も併せて掲載した。
規格	全216ページ、A4版カラー刷り、上製本（ハードカバー）、貼函（ブックケース）入り
贈呈	第50回「日本の書展」直轄4展の出品者、関係者、協力者に対し、50回記念の記念品として1冊ずつ贈呈した。
販売	「日本の書展」直轄4展および特別展において、一般頒価3,000円（税込み）で販売、328冊の購入があった。

2. 特別展の開催

展覧会名	「日本の書展」第五十回特別展「日本の書展を築いた先達の書」
会期	令和4年6月14日（火）～6月19日（日） ※第50回「日本の書展」東京展の日程と一部重ねて開催。
会場	セントラルミュージアム銀座（東京・銀座 紙パルプ会館5階）
主催	（公財）全国書美術振興会 共同通信社
後援	文化庁
内容	記念誌第2部に掲載した先達の書62点、受勲記念帖乾坤2帖、全国書美術振興会50年年表を展示した。
入場者数	6日間で2,410名

Ⅲ.「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム（ワークショップ） ⇒ 開催延期

⇒進捗状況報告は「報告事項3」にて

名称	筆もじにトライ！2022 ～オリジナルうちわを作ろう～
日時	令和4年8月10日（水） Aコース 10:30～11:40 Bコース 13:30～14:40 Cコース 15:40～16:50 令和4年8月11日（木・祝） Dコース 10:30～11:40 Eコース 13:30～14:40 Fコース 15:40～16:50 令和4年8月12日（金） Gコース 10:30～11:40 Hコース 13:30～14:40

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟2階「第1ミーティングルーム」
参加費・材料費 無料
対 象 3歳～小学校3年生までの子ども（保護者同伴）
定 員 募集時は各コース20名としたが、当日のキャンセルを見込んで各コース21名
ずつ予約を取った。
助 成 独立行政法人国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金助成活動より74万9千円
の助成

指導者 上籠鈍牛氏、芹澤翔華氏、畠田心珠氏、堀一惜氏、松浦龍坡氏、宮島翠雨氏

令和4年5月初旬から、振興会ホームページへの公開、「日本の書展」東京展会場内でのチラシ配布、子ども体験ウェブサイトへのアップ、体験場所近郊や沿線上への幼稚園・保育園・小学校・児童館等子ども施設へのチラシ配布、東京駅前総合施設KITTEへのチラシ設置などで、体験プログラムの募集を呼び掛け、7月1日からホームページで募ったところ、各コース21名の定員がすべて満席となった。

しかし、7月中旬から新型コロナウイルス感染者数が急増、10歳未満の子どもの感染者数が増えたことから、安全を取って12月下旬に延期することになった。12月24日（土）、25日（日）、26日（月）の3日間、同じく国立オリンピック記念青少年総合センター内のセンター棟研修室で実施する。

IV. 日本書道文化協会

⇒ 活動報告の詳細は「報告事項5」にて

V. 書写・書道教育推進協議会

⇒ 活動報告の詳細は「報告事項6」にて

VI. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

⇒ 活動報告の詳細は「報告事項7」にて

VII. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第50回「日本の書展」直轄展

- ① 図録 4, 350部（前回49回展は4, 250部）
現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。
巻末には、全展招待・秀拔選作家を含む全出品者名簿を掲載。
出品者には1冊ずつ贈呈。
- ② 出品者本人の作品ブロマイド 7, 584枚
展覧会名・姓号入り 2Lサイズ カラー写真 非売品。
各出品者には、出品者本人のブロマイドを2枚ずつ贈呈。
（出品者3, 632名×2枚ずつ、現代書壇巨匠16名のみ×20枚ずつ）
- ③ 出品者名簿 直轄4展合計 49, 100枚
中部展 9, 700枚
東京展 20, 800枚
関西展 13, 000枚
九州展 5, 600枚
- ④ 案内はがき 120, 500枚
- ⑤ ポスター 600枚
- ⑥ 外国人向け展覧会概要リーフレット 50枚

- (2)第50回「日本の書展」巡回展
 図録（直轄4展と同図録） 700部
- (3)第50回「日本の書展」公募臨書
 - ①入選者名簿 1, 700枚
 - ②入選證 570枚
- (4)第51回「日本の書展」公募臨書
 出品要項 17, 450枚

2. 「日本の書展」50回記念事業の制作

- (1)記念誌「日本の書展」第五十回記念 全国書美術振興会五十年の歩み 4, 500部
- (2)「日本の書展」第五十回特別展「日本の書展を築いた先達の書」
 - ①チラシ 52, 000枚
 - ②作品目録 50, 000枚

3. 「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム「筆もじにトライ！2022」の制作

募集チラシ （8月開催分）3, 500枚 （12月延期開催分）2, 500枚

4. 機関誌「書美術」第39号 4, 470部 令和4年3月1日に発行

5. ホームページの更新

VIII. 書美術功労者の顕彰

恩賜賞・日本芸術院賞を受賞された牛窪梧十理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以上